

# No. 1126

## 三木首相訪米の旅

8月2日日航特別機で日本を発った三木首相一行は翌3日ワシントンアンドルース空港に到着。空港ではホッドソン駐日大使やインガソル国務長官らの出迎えを受けた。

日本とアメリカの新たな協力関係を切り開こうと、三木首相、フォード大統領による日米首脳会談は8月5日ホワイトハウスで開かれた。この会談の冒頭、三木首相は日本赤軍によるクアラルンプール事件について遺憾の意を表明、会談は事件未解決の情勢の中で静かに進められた。

一方、ホワイトハウス前では、在米韓国人が金大中氏の問題をうやむやにするなど抗議、首脳会談反対を叫ぶ姿もみられた。三木首相は会談の合い間をぬってアーリントン墓地の無名戦士の墓に献花。終始緊張したおももちで三木首相は臨んだ。フォード大統領が主催した晩さん会はなごやかなムードの中で進められた。この席上で三木首相はフォード大統領と親しく対話を交わされはじめて笑顔をみせるなど、親善と友好の成果を果たした。2日間6回にわたって開かれた日米首脳会談を終えた三木首相は8日、コロンビア大学で名誉学位を授与された。そのあとロスアンゼルスで在米邦人主催のレセプションに出席するなど、三木首相の訪米の旅は多忙の中成果をあげて終えた。

## 上野の森の救世主

カラスが不景気な声で夜明けをつけると、上野の森にどこからわきでてくるのか、不況の風に追われた浮浪者がぞろぞろ集まりはじめる。その数百人余り。

そこに現われた白髪の老人、十六年余りも浮浪者のめんどろをみている金城周奉さん七十一才。金城さんの声にあわせて賛美歌の合唱、歌い終ると弁当とみそ汁が配られる。浮浪者が食べている間、金城さんの説教は続く。金城さんは「飢えている人たちを見捨てることはできない」と週3回弁当を配り続けている。

失業者の数百万人、不況の中であえいでいる日雇い労働者がいるかぎり、現代の救世主・金城さんは上野の森にあらわれ続けるだろう。